LIBERAL&DEMOCRATIC 自由民主 斉藤たかお 特集号
令和5年(2023年)3月20日(月曜日) 号外(1)
(昭和30年6月15日 第三種郵便物認可)

斉藤たかおさんが名古屋市議会で大活躍

斉藤たかお　クリーン宣言

私、斉藤たかおは、今般、社会的に問題が指摘されている宗教団体との関係は一切ございません。また、今後も関係を持つことがないよう、十分に注意して活動してまいります。

発行所
自由民主党本部
郵便番号 100-8910
東京都千代田区永田町 1-11-23
電話東京 03(3581)6211(代表)
自由民主党ホームページ URL http://www.jimin.jp/

敬老パスの民間路線バスへの対象交通拡大

個人質問 (11月30日)

敬老パス 対象拡大へ
名鉄や三重交通バスも

名古屋市は30日、市営地下鉄や市バスなどを65歳以上の高齢者が年間1000～5000円で利用できる敬老パス制度について、2022年2月から、市内の名鉄バスや三重交通バスにも利用対象を広げる方針を明らかにした。同日の市議会本会議での斉藤高央氏（自民）への答弁。

市高齢福祉課によると、市内を運行するJR、名鉄、近鉄などの鉄道についても、同時期に敬老パスの利用対象にする準備を進めている。

▲読売新聞

敬老パス 名鉄バスもOK
名古屋市で22年2月
三交バスも間に合えば

名古屋市は、市内在住の六十五歳以上の高齢者が年間千円～五千円で利用できる敬老パスなどを65歳以上の高齢者に拡大する。三重交通バスなどを含めた名鉄バスは二三年二月から使える。敬老パスで利用できる交通機関に、名鉄バスと三重交通バスが加わる。敬老パスは、市営地下鉄、市バス、名鉄電車、三重交通バスなどを含めた。

両社の路線でも、名古屋市内で乗車、降車する場合に敬老パスを使える。三重交通バスは名古屋市西部に路線がある。名鉄バスは二三年二月から使える。三重交通バスでは、改修が間に合えば時期が早まる。

名古屋市は、市内在住の六十五歳以上の高齢者が敬老パスなどを使える。名鉄バスは二三年二月から使える。三重交通バスでは、改修が間に合えば時期が早まる。

名古屋市は、市内在住の六十五歳以上の高齢者が敬老パスなどを使える。名鉄バスは二三年二月から使える。三重交通バスでは、改修が間に合えば時期が早まる。

▲中日新聞

名鉄バス24系統 三交3路線対象
敬老パス 利便性向上

名古屋市議会十一月定例会は三十日、本会議を再開し、九議員が個人質問した。市側は、金山総合駅（中区）に直結する鉄道の上部空間で、バス停とタクシー乗降場などを集約する新たな交通ターミナル「バスタ金山」の整備検討を明らかにした。斉藤高央議員（自民）の質問に答えた。

（水野屋敷、池内茂）

名古屋市議会 市議会 個人質問

斉藤高央議員（自民）

名鉄バス、三重交通バスの路線図

▶中日新聞

「バスタ金山」整備検討
駅直結の交通ターミナル

名古屋市議会の定例会は三十日、本会議を再開し、九議員が個人質問した。市側は、金山総合駅（中区）に直結する鉄道の上部空間で、バス停とタクシー乗降場などを集約する新たな交通ターミナル「バスタ金山」の整備検討を明らかにした。斉藤高央議員（自民）の質問に答えた。

（水野屋敷、池内茂）

市議会 個人質問

斉藤高央議員（自民）

▶中日新聞

新たな路面公共交通システム(SRT)

個人質問 (9月16日)

SRT 来月に試験走行
名古屋駅～栄 市民にPR
名古屋市 議会で方針

名古屋市は16日、市中心部で導入を検討している路面公共交通システムSRTの試験走行を来月、中旬に行うガイドラインを示した。市議会本会議で斉藤高央氏（自民）の個人質問に答えた。

市は、リニア中央新幹線の開業を見据えたSRTの2ルートを想定している。今回の試験走行では、2台のバスを運転させる。栄駅から大須、栄、名古屋城を回る一周並ルートと、名古屋駅～栄の「鶴舞ルート」を想定している。新型コロナウイルスの影響が出ないよう、他の交通機関や歩行者によりそう形態を検討する。

SRTは、一般の乗車体験を行わない。人の乗降は、住宅が多い名古屋駅～栄を走ることで、市民へのPRを図る。

SRTについては、名古屋駅～栄を結ぶ地下鉄、名古屋駅～栄を結ぶ地下鉄、大曽根、名古屋城、栄、大須の主な

▶読売新聞

新交通システム「SRT」
名駅～栄で来月試験走行

名古屋市が導入を検討しているバス専用の路面交通システム「SRT」の機種について、市は十日中旬に、栄地下鉄の試験で試験走行を実施する。SRTは、燃料電池バスをつなげた一台編成で運行するなど、燃料電池バスの一部を活用する。

SRTは、リニア中央新幹線の開業を見据えた、名古屋駅～栄の路線。

SRTは、リニア中央新幹線の開業を見据えた、名古屋駅～栄の路線。

▶中日新聞

斉藤たかお 議員（自民）
新たな路面公共交通システム（SRT）

質問 都心部におけるSRTの導入に向けては、調整先も多いことから、実際に見て、乗ってもらうことで、市民や関係者などの理解を得ていくという手法が有効では。また、本格的な導入・運行に向けた今後の進め方は。

答弁 SRT構想の実現に向け、10月中旬頃に名古屋駅-栄間を試験的に走行することを計画しており、来年度以降は市民の体験乗車や走行空間の社会実験など、関係者の理解を得る取り組みを重ね、リニア開業時に都心全体で走行できるよう取り組んでいく。（住宅都市局長）

▲広報なごや173号

新たなバスターミナル「バスタ金山」の整備

個人質問 (6月25日)

バスターミナル需要調査
金山総合駅
名古屋市 名古屋駅の負荷軽減

名古屋市は25日、同市の市議会本会議での斉藤高央氏（自民）への答弁。

斉藤氏は、リニア中央新幹線の工事が進める名古屋駅の西側で現在、観光バスなどが渋滞を起こしているなどと指摘。東京・高速バスの発着所などを集約して開業したJR名鉄、地下鉄などに、乗り入れる金山総合駅周辺に「バスタ金山」を整備できないかと提案した。

光安達也・住宅都市局長は「名古屋駅の交通負荷を軽減するとともに、金山の拠点性向上につながる方策の一つ」と述べた。実現には、バスの発着を金山に移した場合の需要や利用者の利便性が上がるかどうか、必要費用の確保などが課題になると説明した。

▶読売新聞

バスターミナル
市が整備を検討
名古屋・金山駅周辺

名古屋市は25日の市議会本会議で、斉藤高央氏（自民）が、名古屋駅の渋滞解消やインバウンド（訪日外国人）の取り込み効果を想定し、バスターミナルの整備を市に要請。光安達也・住宅都市局長は「まちづくりを進展させる可能性があり、空間活用も検討したい」と明言を避けた。河村たかし市長は散会後、「まずは需要を把握したい」と検討を進める考えを示した。

個人質問で斉藤高央氏（自民）への答弁。

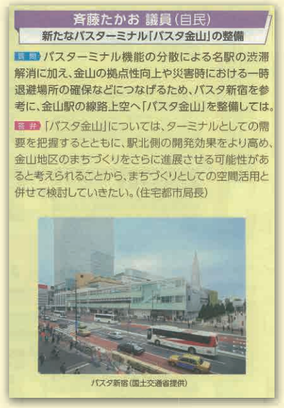
斉藤氏は、リニア中央新幹線の工事が進める名古屋駅の西側で現在、観光バスなどが渋滞を起こしているなどと指摘。東京・高速バスの発着所などを集約して開業したJR名鉄、地下鉄などに、乗り入れる金山総合駅周辺に「バスタ金山」を整備できないかと提案した。

▶読売新聞

斉藤たかお 議員（自民）
新たなバスターミナル「バスタ金山」の整備

質問 バスターミナル機能の分散による名駅の渋滞解消に加え、金山の拠点性向上や災害時における一時退避場所の確保などにつなげるため、バスタ新宿を参考に、金山駅の線路上空へ「バスタ金山」を整備しては。

答弁 「バスタ金山」については、ターミナルとしての需要を把握するとともに、駅北側の開発効果をより高め、金山地区のまちづくりをさらに進展させる可能性があると考えられることから、まちづくりとしての空間活用と併せて検討していきたい。（住宅都市局長）



バスタ新宿（国土交通省提供）

▲広報なごや172号

市教育委員会に校則公開を指示
市長「ルール明確に」

市教育委員会に校則公開を指示したことを明らかにした。【岡正勝】

▲毎日新聞

名古屋駅周辺地下公共空間の整備と周辺のまちづくり

議案外質問 (6月19日)

斉藤たかお 議員（自民）
名古屋駅周辺地下公共空間の整備と周辺のまちづくり

質問 市長が地下公共空間の整備を判断するに当たって課題としている周辺のにぎわい創出などは、住宅都市局において解決に向けて進んでいることから、歩行者などが危険な状態を改善するためにも、地下公共空間の整備について速やかな判断をすべきでは。

答弁 地下通路をさしまライブまで伸ばすことができて、周辺のにぎわいのまちづくりと一体にやるなら、整備してもいい。地下通路の整備は時間がかかるので、歩道は早く拡充しないといけない。（河村市長）

名古屋駅～さしまライブ24地区間の歩道の様子

◀広報なごや167号

河村市長 地下通路容認
さしまライブ 地上も活性化条件

名古屋駅周辺のにぎわいづくりの課題に、市議会本会議で、整備を提案する考えを示した。

斉藤高央議員（自民）

地下通路の整備案が、「まちづくり提案」に、地下通路の早期整備要望書を市に提出していた。

河村市長は「地下通路は、歩道の拡充が必要だ」と述べ、現地視察の上、さしまライブの事業者らによるアクセスや開発などを、さしまライブの事業者らにはしていた。

名古屋駅周辺のにぎわいづくりの課題に、地下通路の早期整備要望書を市に提出していた。

河村市長は「地下通路は、歩道の拡充が必要だ」と述べ、現地視察の上、さしまライブの事業者らによるアクセスや開発などを、さしまライブの事業者らにはしていた。

◀毎日新聞

「笹島のにぎわい創出を」
市長 地下通路整備で3条件

名古屋市議会は十九日に再開し、八議員が個人質問ならびに整備した。名古屋駅と笹島地区（ささしまライブ24）をつなぐ地下通路の整備の進捗状況らが、同時期で、河村たかし市長は、「にぎわい創出などの三つの条件を満たすことが必要」と答えた。

（河村光晴、谷岳司、中山尋）

市議会 個人質問

斉藤高央議員（自民）

河村市長は、「地区が自治体の区域を超えてしまうようなことがないようにしてもらいたい」と述べた。

地下通路の整備案が、「にぎわいの創出」に直結するかどうかは、「地下通路を通ってもらえるかどうかが必要」と、中川運河をまたぐ地区（車道を一部廃止して）歩道の拡張を完全に確保する。

さらに、市は、地下通路の整備案を、「アクセス改善」や「安全面から地下通路の整備」などの観点から、「地下通路の早期整備」を、「まちづくり提案」として、市に提出していた。

河村市長は、地下通路の整備案が、「地下通路の早期整備」を、「まちづくり提案」として、市に提出していた。

◀中日新聞

堀川・新堀川流域における下水道の分流化

議案外質問 (11月26日)

斉藤たかお 議員（自民）
堀川・新堀川流域における下水道の分流化

質問 現在の合流式下水道では強い降雨時に汚水を含む雨水が河川に放流されてしまうため、まちづくりへの貢献という観点から、抜本的な水質浄化策として汚水と雨水を別々の下水管で集める分流式を目指すべきでは。

答弁 非常に長い期間と莫大な費用を要するという課題はあるが、将来的には汚水管と雨水管を分離する完全分流化を目指していく。まずは、早期に水質浄化の効果を発揮する対策として、合流式と分流式の利点の双方を生かす下水道システムを構築していく。（上下水道局長）

◀広報なごや169号

堀川、完全分流化へ
名古屋市 汚水防ぎ水質浄化

名古屋市は26日、市中心部を流れる堀川に汚水が流れないようにするため、雨水を下水管に流す「分流化」を目指す方針を示した。この日の市議会本会議で、斉藤高央議員（自民）の質問に答えた。

現在は、流域全体が家庭排水などの汚水と雨水を同じ管で流す「合流式下水道」となっている。晴天時は汚水は下水管を流れて水処理場で処理されるが、雨が降ると、汚水を含む水が堀川へ流れ込むという。

市